Slovenia Monthly April 2022

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館　発行日：2022年5月18日

～4月の主なポイント～

内　政：　国民議会総選挙、自由運動党が勝利
外　政：　スロベニア、ロシア大使館の職員を41人から8人に削減
経　済：　安川電機が新ロボットを開発
スポーツ：　ロシアに代わりスロベニアとポーランドがバレーボール世界大会の開催地となる

政治

【内政】

●市長に対する満足度に関する世論調査【3日】

スロベニアの12の都市自治体における市長の仕事に対する地元の満足度を測る最新の世論調査で、クラッグレル・スロベン・グラデッツ市長が最高の評価を受け、ヤンコビッチ・リュブリャナ市長とイェウシェク・ムルスカソボタ市長がそれに続く結果となった。評価が低かったのは、ミクラヴィッチ・ノヴァ・ゴリツァ市長、ラコヴェツ・クラン市長、アルセノヴィッチ・マリボル市長となった。

●LGNターミナルのリース【4日】

クロアチアはクルク島にある液化天然ガス（LNG）ターミナルの容量を年間3億立方メートル増やし、リース契約の公募を間もなく発表する予定である。4日、ヴルトヴェツ・インフラ大臣は、スロベニアは同リース契約に関心があると述べ、追加容量は今年のスロベニアのガス需要の約3分の1をカバーすると付け加えた。同大臣は、クルク島にてチョリッチ・クロアチア経済・持続可能な開発大臣と会談した後、「公募が公表されたら、重要な供給者の1つである天然ガス取引会社ゲオプリン社（Geoplin）を含め、スロベニアのガス供給者とクロアチアの企業は合意を強化する必要があり、私（ヴルトヴェツ大臣）は取引が行われると信じている」と述べた。同措置により、スロベニアのロシアからのガス供給への依存度は大幅に低下することになる。

●電気通信法案の採決が延期【6日】

6日、7日に予定されていた電気通信に関するEU指令をスロベニア国内法に反映させることを目的とした電子通信法案の採決の延期が決定された。これはマリヤン・シャレツ・リスト（LMS）が諮問的国民投票の動議を提出したことによるもので、同法案採決の前に同法案の審議が必要となったためである。社会民主党（SD）、アレンカ・ブラトゥシェク党（SAB）及び左派党（Left）が同動議を支持した。野党は、同法案は特定の機器メーカーの市場からの排除を可能にし、通信ネットワーク及びサービス庁（AKOS）の自治を侵すものであると批判をしていた。

同法案は、2月初旬に旧法案が議会で否決された後、3月17日に新法案として作成されたものであり、同電気通信法案の採決は政府による2度目の試みとなる。旧法案は5Gネットワークのセキュリティに関する条項があり、中国ファーウェイ社がスロベニアの通信事業者に機器を販売することを事実上阻止しようと

するものだと野党が主張したため否決された。新法案には、若干の変更はあるものの、リスクの高い業者を市場から排除する規定が依然含まれている。

同日、欧州委員会は、スロベニアをはじめ、電子通信に関するEU指令を国内法に反映していない9カ国に対し、欧州司法裁判所への手続きを開始した。EU加盟国は、2020年12月21日までにEU指令を各国国内法に反映することになっており、同措置を完了していない国は、2021年2月に最初の警告を受け、昨年9月に2回目の警告を受けていた。

●スロベニア最大の太陽光発電所がフラストニク近郊にオープン【8日】

国営電力会社HSEは、フラストニク近郊のプラプレトノ埋立地の再生・閉鎖区画で、3036メガワットの太陽光発電所を稼働させた。太陽光発電所としては国内最大で、250万ユーロの価値があり、約800世帯に電力を供給することが期待されている。

●リュブリャナ乗客センターの建設【11日】

3億5千万ユーロ規模の官民合同事業によるリュブリャナ乗客センター「エモニカ」の建設計画は、2022年末までに全ての許可を得て、2025年に完成する予定。バス及び鉄道ターミナル部分は政府によって、商業部分はハンガリーのOTP銀行によって負担・建設される予定。同計画は2007年にスロベニア鉄道及びハンガリー・カナダ企業Trigranitによって考案されたが全く進展せず、2020年5月に政府が商業部分と公共部分に計画を分割し、OTP銀行を出資者として迎えた。ヴルトヴェツ・インフラ大臣は、これ以上の不要な遅延は許されないと述べた。

●中期国防計画の採択【14日】

政府は、2022年から2026年までの中期防衛計画を採択した。同計画では、防衛費を年平均7，200万ユーロ増やし、2026年までに9億8，300万ユーロに到達させるとしている。同計画は、優先的能力の開発と近代化、スロベニア軍と防衛システムの再編を進めることを目的としたもの。

●クランーイェセニツェ間の鉄道整備が開始される【15日】

スロベニアの鉄道システムとオーストリアを結ぶ重要な区間であるクランーイェセニツェ間の鉄道線路の修繕工事が、EU復興・回復基金から一部融資を受けた最初のプロジェクトとして正式に開始された。1億6，600万ユーロの同プロジェクトは、1年半前に開始されており、5月に完了する予定。線路やその他のインフラの改良が行われ、列車の高速化が可能になる。

●スロベニアの民主主義衰退に関するフリーダムハウス報告書【20日】

世界の民主主義の状況を評価する米NGOフリーダムハウスは、最新の年次報告書で、昨年はスロベニアが広域地域で最大の民主主義衰退に見舞われたと発表した。また、同地域では18年連続で民主主義が衰退していると警告している。

●国民議会総選挙、自由運動党が勝利【24日】

24日、国民議会総選挙で自由運動党（GS）が34，45%の得票率で圧勝し、90議席の内41議席を獲得した。投票率は70%を超え、2000年以降で最高の投票率となった。民主党（SDS）の得票率は23，48%で27議席を獲得した。新スロベニア党（NSi）は得票率6，86%で8議席、社会民主党（SD）は6，69%で7議席、左派党（Left）は4，46%で5議席を獲得した。アレンカ・ブラトゥシェク党（SAB）、マリヤン・シャレツ・リスト（LMŠ）、国民党（SNS）、年金者党（DeSUS）、コネクティング・スロベニアは4%の得票率基準を満たせず、国民議会政党数は9党から5党に減少した。

ゴロブGS党首は、選挙に勝利し、国に自由をもたらすという目標を達成したとし、勝利宣言した。ヤンシャ首相は、SDSが2018年の総選挙より高い得票率を獲得したことに満足を表明した。また、ゴロブ党首に対して祝意を表明し、SDSは建設的な野党になると述べた。

同選挙では36人の女性が国民議会議員に選出され、女性議員の数はスロベニア独立以来最高となった。自由運動党は、女性議員の数が最も多いだけでなく、選出された候補者の半数以上が女性である。イタリアとハンガリーの少数派議員である現職のフェリツェ議員とフェレンツ議員は、ともに再選を果たした。

●エネルギー製品の税軽減措置、7月末まで延長【28日】

政府は、電気、自動車燃料、暖房用オイル、天然ガスに対する物品税の軽減措置の有効期間を7月31日まで3ヶ月間延長した。エネルギー製品の税軽減措置は、エネルギー価格の高騰が国民や企業に与える影響を緩和するための施策の一環として、2月1日に初めて実施された。

【外政等】

●スロベニア、ルーブルでのガス代支払いを拒否【1日】

ヴルトヴェツ・インフラ相は、ロシアのガス供給をルーブルで支払うことを拒否し、ロシアの関与を受け入れないと述べた。プーチン大統領が要求するルーブルでの支払いを拒否することで、EUは一致団結していることを強調した。また、ガス供給の多様化の見通しは良好であると評価し、エネルギー使用を制限する理由は今のところないと述べた。

●パホル大統領とエルドアン大統領と電話会談【5日】

パホル大統領は、エルドアン・トルコ大統領と電話会談し、ロシアのウクライナ侵攻とトルコが主導するウクライナ・ロシア交渉の重要性について議論した。また、両大統領は、良好かつ友好的な二国間関係を再確認した。同会談は、両大統領が3月にアンタルヤで行われた公式会談で、トルコ主催のウクライナ・ロシア間の交渉の進捗状況について定期的に協議を行うことへの合意を受けて開催された。

●スロベニア、ロシア大使館の職員を41人から8人に削減【5日、7日】

外務省はEyvazov駐スロベニア・ロシア大使を召喚し、ウクライナのブチャやその他の町における民間人殺害に対するスロベニアの強い抗議と衝撃を表明し、リュブリャナのロシア大使館の職員を41人から8人に減らすことを通告した。同省は、同大使に対して、ロシア侵略軍の占領から町が解放された後に衛星画像などで明らかになったブチャやその他の町でのウクライナ市民の虐殺に強い抗議と失望を表明した。

これに対し、ロシア外務省は、スロベニア政府の決定は、非常に無責任で非友好的であると述べ、この動きは、ロシア恐怖症（Russophobia）の現政権が提唱する反ロシアの姿勢を反映していると述べた。同省ウェブサイトには、「これらの動きは、今年30周年を迎えるロシアとスロベニアの関係を組織的に破壊しようとするものであることは明らかだ」と掲載された。

●ロガル外相、ロシア産ガス輸入の早期禁止を要請【7日】

7日、ロガル外相は、ブリュッセルで開催中のNATO閣僚会議に出席し、EUによるロシアのガス輸入の早期禁止を呼びかけた。同大臣はまた、ロシアの侵略と戦うウクライナに対し、国際的に認められた国境内の領土を解放するために、さらなる人道的・軍事的支援を継続するよう呼びかけた。また、スロベニアは、EUの化石燃料のロシア依存からの脱却を求めるEU11カ国のイニシアチブに参加した。同イニシアチブ参加国は、Fit for 55パッケージを、化石燃料のロシア依存からの脱却を達成するための重要な手段のひとつとしている

●スロベニア・キプロス内相会談【8日】

ホイス内相とヌリス・キプロス内相は、リュブリャナで会合し、ウクライナにおける戦争とその影響について協議した。両大臣は、EUレベルで移民を管理することの重要性を強調し、スロベニアが柔軟な連帯を提唱するEUの移民と庇護に関する協定についても議論した。ホイス内相は、定期的な情報交換、難民の移送の調整、EUレベルでの一時保護対象者の登録のための欧州単一システムの構築、資金の提供、EU資金の引き出しの柔軟性向上など、EUレベルで適切かつ協調的に対応し、同移民問題に対処しなければならないと述べた。また、同内相は、安全保障の側面やEUの対外国境の保護強化の重要性も強調し、欧州国境沿岸警備機関（Frontex）の役割を強化するよう呼びかけた。

●スロベニア、ウクライナ支援基金に100万ユーロを拠出【9日】

スロベニアは、ウクライナ難民支援のための国際ドナー会議で、100万ユーロを拠出した。また、モルドバ、スロバキア、ポーランドにいるウクライナ難民の現物支給による支援も行う予定である。

●ウクライナ市民へのデジタル機器の供与及びスロバキアにおける前方展開部隊に関する決定【11日】

11日、スロベニア政府は、デジタル変革庁と国防省の合意を受け、ウクライナ人のためにデジタル技術および機器の購入のために174，000ユーロを確保し、公開入札を実施することを決定した。

また政府は、スロバキアにおけるNATOの前方展開部隊（EFP）に、200人のスロベニア軍を参加させることを最終決定した。スロベニア軍の発表によると、第一段階では、100人のスロベニア軍がスロバキアに配置される予定。兵員は4月11日から出発できるようになるが、配置の具体的な日付は受け入れ国によって異なる。

スロベニア軍は、拡大警戒活動（eVA）に参加し、交代制を取る可能性もある。兵員は、NATOの防衛を支援するため、即応態勢を提供・維持する戦闘団の活動に参加することになりる。同グループの活動には、演習、訓練、その他の平時の活動が含まれる。また、スロベニア兵は、NATO戦闘団の一員として、他のNATO諸国における平時の活動にも従事する可能性がある。

●スロベニア・ギリシャ内相会談【11日】

11日、ホイス内相は、ミタラキス・ギリシャ移民・庇護大臣と会談し、ウクライナからの移民の流入に対す

るEUの統一的なアプローチを呼び掛けた。内務省のプレスリリースによるとホイス内相は、「ウクライナにおける戦争とその結果には、我々の最大限の注意と加盟国の協調的な行動が必要である。この困難な時期に、我々はウクライナとその住民と最大限の連帯をしなければならない」と述べた。また、同プレスリリースによると、同大臣は、EUの対外国境における確認と登録を優先させる必要があるとし、状況をよりよく把握し、安全保障上のリスクを防ぐために、EUレベルのデータベースが必要だと述べた。

●C5外相、ウクライナへのさらなる支援を約束【12日】

12日、チェコ市近郊のストシーンにおいて、C5（スロベニア、オーストリア、スロバキア、チェコ、ハンガリー）外相会合が実施され、ウクライナにおける戦争が主な議題となった。外相たちは、EUに流入するウクライナ難民へのさらなる支援を約束した。ロガル外相は記者会見で、ロシアによるクリミア併合後に犯した過ちをEUは繰り返してはならないと述べ、EUの対ロシア制裁をさらに強化するよう呼びかけた。また、ウクライナの一日も早いEU加盟に対する期待を表明した。

●ウクライナ・チャリティーセンターがリュブリャナにオープン【12日】

12日、リュブリャナのショッピングセンターBTCで、ウクライナ難民に支援、物資援助、社会的交流や勉強の場を提供するウクライナためのチャリティーセンター「Chervona Kalyna」がオープンした。同センター代表のNatalya Markevych氏は、同センターは、「難民に出会いと学びの場を提供し、自宅のように感じてもらう」ことを目的に設立されたと述べた。同センターの設置は、在スロベニア・ウクライナ大使館、スロベニア・カリタス、BTCの協力によるもので、同センターの設置にはBTCが無償で敷地を提供した。

●ウクライナ大使、支援のシンボルとして蜂の巣を受け取る【13日】

ポドゴルシェク農林食糧大臣は、ウクライナとウクライナ国民への強い支援の証として、Brodovych駐スロベニア・ウクライナ大使に蜂の巣を贈呈した。「この象徴的な行為によって、我々はすべてのウクライナ国民にポジティブなメッセージを伝えたいと思う」とポドゴルシェク大臣は述べた。Brodovych大使は、「スロベニアは小さな国ですが、大きな心を持っている。スロベニアは戦争が始まって以来、様々な分野でウクライナを支援してきた」と感謝の意を表明した。

●パホル大統領とヴチッチ大統領の会談【18日】

パホル大統領は、スロベニアを実務訪問したヴチッチ・セルビア大統領とともに、スロベニア西部のゼモノ・マノルで開催されたワーキングディナー前に記者会見を行った。パホル大統領は、特に地政学的な問題となっている西バルカン諸国へのEUの拡大が平和と安全に貢献するため、スロベニアは引き続きEUの同地域への拡大を支持することを約束した。また、平和と安定を確保するために、地域の指導者は自らの行動や発言によって状況を悪化させないように注意しなければならないと強調した。ヴチッチ大統領は、セルビアのEU加盟に対するスロベニアの揺るぎない支援に感謝の意を表明し、西バルカン諸国全体の欧州加盟を提唱した。

●ヤンシャ首相とブリンケン米国務長官の電話会談【21日】

ヤンシャ首相は、ブリンケン米国務長官と電話会談を行った。両者は会談で、強固な安全保障支援を通じて、ウクライナの主権と領土の一体性を引き続き支持する必要性を強調した。また、両者は、ロシア軍によるウクライナに対する理不尽で不当な戦争で行われた恐ろしい残虐行為を非難し、モスクワに説明責任を果たさせる必要性を強調した。

●パホル大統領とシュタインマイヤー大統領の会談【28日】

パホル大統領は、シュタインマイヤー独大統領と実務会談を行い、ロシアのウクライナ侵略について協議し、西バルカン情勢についても意見交換を行った。両大統領は、ロシアのウクライナへの侵略について意見交換し、国際秩序に対する明白な違反について深い懸念を表明した。

経済

【経済一般、指標・統計】

●中銀総裁、インフレ率の上昇に警鐘【22日】

IMFと世界銀行の春季会合のためにワシントンを訪れているヴァスレ・スロベニア中央銀行総裁は、ロシアによるウクライナ侵攻により、当初の予想を下回る経済成長とインフレ率の上昇に警鐘を鳴らした。同総裁は、「紛争の影響は世界的な規模に達しており、まずエネルギーや食料価格の上昇に反映され、また経済動向にもますます反映されつつあり、最も影響を受けているのはEU加盟国である」と述べた。

【企業、産業の動向】

●フォルテノヴァ（Fortenova）、小売店メルカトルの単独オーナーになる【4日、12日】

4日、クロアチアのグループであるフォルテノヴァは、すべての小口株主を締め出し、スロベニア最大の小売業者メルカトルの単独株主となった。同社は、メルカトルの約90%の株式を既に保有しており、2，240万ユーロを支払って発行済み株式を取得したと発表した。

12日、メルカトルの株主は、メルカトルの株式市場からの撤退を承認した。リュブリャナ証券取引所でのメルカトル株取引は3月22日以降停止されている。

●イスラエルのTaavura Group、スロベニアにおけるルノーディーラーを買収【5日】

フランスの自動車メーカーであるルノーは、ルノー・グループの販売再編の一環として、スロベニアでルノー、ダチア、アルピーヌの各ブランドを輸入・販売するルノーグループのディーラーをイスラエルのTaavura Groupに売却する契約を締結したと発表した。

同グループは、スロベニア支店の輸入・流通に関わる現在の全従業員と、スロベニアにおける販売・サービス網の全活動を引き継ぐことになる。

また、ルノー・日産スロベニアの経営陣は、同グループがスロベニアにおける日産車、スペアパーツおよびその他のサービスの新たな販売代理店となることを発表した。また、同グループは、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、コソボ、アルバニア、北マケドニアにおける日産の販売・サービス活動も引き継ぐ予定。なお、同取引は競争保護庁の承認を得る必要があるため、Taavura Groupのもとでの営業開始は夏の初め頃を予定している。

●NKBM銀行グループの利益が半減【6日】

スロベニア第2位の銀行グループであるNKBMは、2021年の純利益が1億1260万ユーロとほぼ半減したが、同銀行は、利益の減少は厳しい事業環境と新型コロナウイルス感染症の大流行が原因であるとしている。2021年5月、同行のオーナーである米ファンドのアポロ社（80%）とEBRDは、すでにスロベニアでSKB BANKAを保有しているハンガリーのOTP Bankグループに同行を売却する契約に調印した。規制当局の承認を待って、この取引は2022年の第2四半期か第3四半期に最終決定される見込み。

●安川電機が新ロボットを開発【13日】

スロベニアに所在する安川電機3社の内の1つである安川ヨーロッパ・ロボティクス（Yaskawa Europe Robotics）はこれまで日本で開発されたロボットのみを製造していたが、独自のロボットを開発した。新しく開発されたロボットのGP20は金属加工産業に適しており、安川電機は同ロボットを米国で販売したいと考えている。同社は、ロボットのサイズ、剛性、精度の高さから、作業スペースが広がるというメリットがあるとSTAに述べた。

●コペル港、2億4，800万ユーロの投資計画案を確認【22日】

コペル港を運営するルカ・コペル社の監査役会は、コンテナターミナルのキャパシティを年間175万ユニットに増強するため、2030年までの2億4，800万ユーロ相当の投資計画案を確定した。同計画案には、第1埠頭の船舶の停泊場所と倉庫の拡張、コンテナ用クレーンの増設、埠頭の線路延長、埠頭の内陸部にある新しいコンテナ倉庫の増設が含まれている。

治安

●詐欺事件【1日】

4月上旬、警察は、57歳の女性が、海外のガス関連会社で働く男性とネット上でやり取りをしていると思い込み、総額5万ユーロ以上の大金をだまし取られたロマンス詐欺事件を取り扱っていることを発表した。警察はネットユーザー、特に女性ユーザーに対し、このようなネット詐欺の被害に遭わないよう注意を呼びかけている。

●窃盗事件【24日】

最近、電動自転車の盗難被害が多くなっており、4月下旬の週末には、リュブリャナ・モステ地区にある会社の倉庫から数台の電動自転車及び電動工具が盗まれる被害（被害総額数千ユーロ相当）が発生したほか、リュブリャナ・ベジグラード地区の地下室からマウンテンバイクが盗まれる被害（被害額約300ユーロ相当）、グロスプリェ近郊の個人宅から現金及び宝飾品が盗まれる被害、リュブリャナ・ヴィッチ地区の建設用コンテナからチェーンソー等の工具が盗まれる被害（被害額1，500ユーロ相当）が発生した。

社会・文化・スポーツ

【文化・生活等】

●スロベニア出身の指揮者がグラミー賞を受賞【6日】

スロベニア系指揮者で、数年前までマリボル・オペラハウスの芸術監督とオーケストラの首席指揮者を務めたカレン・カメンシェクが、フィリップ・グラスのオペラ『アクナテン』でグラミー賞の最優秀オペラ録音賞を獲得。カメンシェクはシカゴ生まれだが、両親はマリボル近郊のカムニツァ出身。

●学校のロックダウン調査により、リモート学校教育の課題が明らかに【8日】

新型コロナウイルス・パンデミック時に、教育システムがどのように推移したかに関する国際的な調査によると、スロベニアに於いては、学習目標の達成度、知識水準、成績の区分において、懸念される結果が示されたことがわかった。教育研究所が実施したこの調査では、多くの教師と生徒が、多くのストレスを感じているとも報告されている。

●COVID-19トラッカーが、社会的に有益な取り組みとしてデザイン賞の最高賞を受賞【13日】

新型コロナウイルス・トラッカー「Sledilnik」が、第10回Brumen biennial of Slovenian Designで、社会に有益な貢献をしているとして最優秀賞を受賞。ブルメン財団は、このオンライン・トラッカーが、危機の時代にデザインが解決策を提供できることを示したと述べた。

●マリボル市、自転車シェアリングシステムを開始【21日】

マリボル市は、自転車シェアリングシステム「Mbajk」を開始した。現在、市中心部の広い範囲に21のドッキングステーションと210台の自転車が配置されており、最初の1時間は無料でレンタル可能。このシステムはメーデーの連休明けに正式にオープンする予定。自転車はシングルユーズを単位としており、複数時間や1日単位でのレンタルとはならない。1回の乗車上限時間は24時間まで。一度購入すれば、1回につき60分間無料で利用でき、60分延長は1ユーロ、2時間延長は2ユーロ、それ以降はすべて4ユーロと加算される。年間利用者は登録料として3ユーロ、ウィークリープランは1ユーロの利用登録が可能。
https://www.mbajk.si/en/home

●第1四半期に観光業が回復【25日】

スロベニアは今年第1四半期に70万人近い観光客を記録し、前年比10倍以上、2021年の同時期を上回ったことが、統計局の数字で明らかになった。国内観光客が全体のおよそ53%を占め、国外からの

観光客としてはクロアチア、イタリア、オーストリア、ハンガリーからの観光客が大部分を占めた。

●スロベニアの研究者ら、欧州研究会議より助成金を獲得【26日】

宇宙の初期史を研究する天体物理学者マルシャ・ブラダッチと、ホロモーフィック偏微分関係に取り組む数学者フランツ・フォルストネリッチが率いるプロジェクトが、欧州研究会議2021年上級助成金コンペの一環としてそれぞれおよそ210万ユーロと150万ユーロを獲得した。特に数学分野でこの名誉ある助成金を獲得したのはスロベニア史上初。また、助成金を獲得したもう一つのプロジェクトは、250万ユーロに相当し、コペル科学研究センターの歴史家ボルト・クラビャンが、アルプス-アドリア海における越境診療の歴史を探求するために獲得した。

●スロベニアの3都市がEUの気候ニュートラル・プロジェクトに選ばれる【28日】

欧州委員会の「気候ニュートラル・スマートシティ2030ミッション」にスロベニアの8都市が応募し、そのうちリュブリャナ、クラン、ヴェレニエの3都市が採用された。2022年から2023年にかけて、「ホライゾンヨーロッパ」プログラムを通じて3億6千万ユーロが支給される予定。スロベニアからは、他に5つの自治体が応募していたが、落選。他方で377都市が応募するという関心の高さから、落選した都市にも支援が提供されることとなった。同プロジェクトでは、代替燃料車、公共交通機関、カーシェアリング、屋上緑化を推進し、2030年までに気候変動に左右されない社会を実現するよう参加都市に働きかけていく。欧州委員会は、都市部の二酸化炭素排出量が大きいことを考慮し、2050年までに他の都市が気候変動に対応できるよう、各都市が協力することを奨励することが重要であると判断した。

【スポーツ】

●ゴルファー、バブニクが今シーズン初の女子メジャー大会で3位入賞【4日】

スロベニア最高のプロゴルファーであるピア・バブニク（18歳）は、米国カリフォルニア州で開催された今シーズン初の女子メジャー大会「シェブロン選手権」で3位に入賞し、新たなマイルストーンを打ち立てた。これは、スロベニア人ゴルファーがこれまで達成した中で、断トツの好成績である。バブニクは、賞金総額500万ドルの4日間のトーナメントを11アンダーで終えた。また、バブニクに次いで4位10アンダーのスコアを残したのは、日本の渋野日向子だった。

●スロベニアがUCIランキングで首位、ポガチャルが初の六千ポイントを達成【5日】

自転車のタデイ・ポガチャル選手は、UCI世界ロードレースランキングで史上初めて6，000ポイントを突破、各国のベスト8選手の合計得点においてスロベニアが首位となった。UAEチーム・エミレーツに所属するポガチャルは、現在6，051ポイントで2位のプリモシュ・ログリッチ（ジャンボ・ヴィスマ所属）に4，152ポイントの差をつけている。同じくスロベニア出身のマテイ・モホリッチ（バーレーン・ヴィクトリアス所属）は2，683ポイントで5位につけている。

●ロシアに代わりスロベニアとポーランドがバレーボール世界大会の開催地となる【14日】

晩夏のバレーボール男子世界選手権はロシアに代わりスロベニアとポーランドが開催すると、両国政府がツイッターで発表。統括団体であるFIVBもこの件を確定している。ポーランドはメインホストとして、ベスト16のうち2試合、準々決勝2試合、準決勝2試合、決勝戦、銅メダル争奪戦の開催を予定している。スロベニアは、予選グループ2試合を開催する。

●柔道家ポガチュニックが欧州柔道選手権大会女子70kg級で銅メダル獲得【30日】

ブルガリアのソフィアで開催された欧州柔道選手権大会女子70kg級で、スロベニアの柔道家アンカ・ポガチュニック（30歳）が銅メダルを獲得、主要大会での初メダルとなった。

スロベニア日本国大使館

電話：+386-1-200-8281 又は 8282、Fax：+386-1-251-1822、Email：info@s2.mofa.go.jp

Web：http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_si/Zivljenje_na_Japonskem.html

【領事班からのお知らせ】

●海外に住んでいる人が、外国にいながら国政選挙に投票できる制度を「在外選挙制度」といい、これによる投票を「在外投票」といいます。在外投票ができるのは、日本国籍を持つ 18 歳以上の有権者で、在外選挙人名簿に登録され、在外選挙人証を持っている人です。在外選挙人証の申請から受け取りまでには通常2か月程度の期間を要しますので、早めの申請を行ってください。

●当館は、令和 4 年 4 月 1 日から、在外選挙人登録申請の際の本人出頭を免除する特例措置を開始しています。遠隔地にお住まいの方や在外選挙人登録申請のために来館できない特別な事情がある方など、一定の条件を満たす方は、ビデオ通話を通じて本人確認及び事前に送付又は託送された提出書類の原本確認を行うことによって、来館いただくことなく、在外選挙人登録申請ができます。

【当館 HP】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000092.html

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。また、ご提出いただいている「在留届」について、住所変更や同居家族の帰国等、記載事項に変更が生じた場合には変更届を、第3国への転出や日本への帰国の際には転出・帰国届をご提出いただきますようお願いいたします。

【外務省オンライン在留届】: http://www.ezairyu.mofa.go.jp/

●新型コロナウイルス：引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関するスロベニアの出入国規制などについてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00027.html

●当地での在留許可取得や在留許可延長手続の際に必要となる警察（犯罪経歴）証明については、申請から交付までに約2～3か月かかります。お手続きに必要となる期間をあらかじめ考慮していただき、余裕を持って申請を行っていただくようお願いいたします。

【参考情報】

1．外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス（日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限）等の情報を掲載しています。

https://www.anzen.mofa.go.jp/

2．たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご活用下さい。

https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。
https://www.nijz.si
（主にスロベニア語）
4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。
https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて　～一人ひとりができる対策を知っておこう～（首相官邸）
https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ
https://www.fraport-slovenija.si/en.html

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらもご確認ください。
●政府（英語）：https://twitter.com/govslovenia
●政府（スロベニア語）：https://twitter.com/vladars
（英語版と若干内容が異なります。）
●外務省：https://twitter.com/mzzrs
（主にスロベニア語）
●保健省：https://twitter.com/minzdravje
（主にスロベニア語）

【広報文化班からのお知らせ】
●第10回ジャパン・デー2022開催予定日決定
　日本の祭「第10回ジャパン・デー2022」の開催日程を決定いたしました。これまでとは心機一転、会場を移転しての開催となります。乞うご期待！プログラムなどの最新情報は特設 HP（随時アップデート）をご確認ください。
〇開催予定日：6月11日11時から17時
〇会場：当館ロビー及び当館前広場（ツインタワーの間）
〇特設 HP：https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00596.html

●赤石路代漫画原画展開催
　漫画家として長年活躍されている赤石路代先生の漫画原画展を開催します。
〇開催予定期間：6月中旬から7月中旬
〇会場：Library Prežihov Voranc Ljubljana-Vic (Knjižnica Prežihov Voranc)
〇住所：Tržaška c. 47a, 1000 Ljubljana

(c)赤石路代

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中
　当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版（英語音声）を配信しております。
Embassy of Japan in Slovenia - YouTube

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！
https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/